

第 21 回 猪名川自然環境委員会 議事概要(案)

日 時 平成 24 年 10 月 31 日 (水) 14:00~16:10

場 所 大阪マーチャングイズマートビル (OMMビル) 2階 会議室 (1・2 号室)

出席者 池淵委員、斉藤委員、菅原委員、竹門委員、田中委員、服部委員、松井委員、村上委員、森下委員 (委員長)
猪名川河川事務所：谷川事務所長、福岡副所長、(調査・品質確保課) 荘司課長、横山係長、(工務課) 岸本課長、中澤係長
河川環境管理財団：今井、宝藤
傍聴：7 名

議 事 1. 平成 24 年度工事予定箇所への環境への影響と対策について
2. 平成 24 年度自然再生箇所等のモニタリング調査計画について

1. 結果

(1) 河道掘削に関する基礎資料について

- 近年実施された河道掘削工事を含めて、土砂収支の現状を整理し、河床変動計算による予測の検証を行う必要がある。そのうえで、河道掘削が必要となる区間を予測によって明確にしておく必要がある
- 河床変動は、数パターンでの流量条件で河床変動計算を行い、傾向の違いを把握したうえで予測を行う必要がある。
- 河床変動計算を行い、堆積が継続する区間、洗掘が生じる区間、堆積と洗掘を繰り返す区間など、一定の区間に細分して結果を整理する必要がある。

(2) 平成 24 年度工事予定箇所への環境への影響と対策について

- 戸ノ内地区の浚渫範囲には、河床の表層にフラッシュされるような細粒分が堆積しているものの、平成 16 年の出水でも河床低下が生じていない。下層はフラッシュされない土砂であると想定されるが、再度、河床材料調査などを精査し、浚渫の必要性を確認しておく。
- 利倉地区の河道掘削範囲に確認されていたミコシガヤは、生育を確認した箇所の土を採取し、適切な場所へ移動させて保護を行う。

2. 主な意見

(1) 河道掘削に関する基礎資料について

- 土砂堆積が継続する区間にはどのような生態系が形成されるかなど、土砂移動と生態系の関係について、時間経過を踏まえた検討が望まれる。
- 細かな区間の変化を把握するよりも、大きな区間で分割して、特徴的な傾向を導き出すことにより、河道掘削の影響を予測しやすくなる。

(2) 平成 24 年度工事予定箇所への環境への影響と対策について

1) 戸ノ内地区河道浚渫工事

- 洪水時の土砂移動を考慮した水理解析を行い、河道掘削の必要性を確認しておく必要がある。
- 治水上必要となる掘削断面に、洪水時にフラッシュされるような砂によって干潟を創出するなど、環境対策と一体となった治水対策の検討が必要である。

2) 利倉地区他河道掘削工事・藻川分派地区河道掘削工事

- 河道掘削に際して、多様な流れと川の営力を活かすということは、浸食と堆積を促すということだと思ふ。冠水域を増やしてなだらかにする河道掘削では、浸食と堆積を促す仕組みになりにくい。もう少し何らかの工夫が欲しい。
- 猪名川大橋地区礫河原再生工事の計画のように、掘削した土砂の一部を移動しやすい箇所へ置き土する対策が望ましい。治水上必要となる掘削に加えて少し多めの掘削を行い、その掘削土砂の一部を水衝部などの出水時に移動しやすい箇所へ置くという対策が必要である。

3) 猪名川大橋地区礫河原再生工事

- 河岸沿いの掘削だけでは生物の生息環境の単純化につながる。川の流れを滞留させたり、促進させたりするような水制工を設置するなど、生物の多様な生息環境をつくりだす仕掛けが欲しい。
- 素掘水路形状の掘削箇所に掘削土砂を置く際、外来種が繁茂しないよう、土砂量に注意する必要がある。

(3) 平成 24 年度自然再生箇所等のモニタリング調査計画について

- 簡易魚道の評価は、魚道の設置により、どの程度までアユの遡上地点が延長できたのかという視点が必要である。その際、個体数での評価もできると良い。

以上